

2023年度 課題研究指導実施方針

教 員 名	大矢 奈美
指 導 分 野	<p>労働経済・社会保障の分野を中心とした実証分析。ただし、制度分析も含む。</p> <p>例) 若年者の労働市場に関わる問題 不安定就業者に対する職業能力開発 単身高齢者の貧困問題 非正規雇用者への社会保険適用拡大問題</p>
指 導 方 針 (指 導 の 概 要 ・ 日 程 等)	<p>[修士論文]</p> <p>修士論文に取り組む前提として、統計学特論、経済統計学特論、労働経済学特論、計量経済学特論、社会保障論特論（これらは学部開講の統計学、労働経済学、計量経済学、社会保障論でも可）を履修済み、もしくは履修していることが望ましい。</p> <p>近年では個票データを用いた計量分析が多いが、都道府県パネルデータを使った分析など、個票以外に活用できるデータもある。まず論文提出年度の6月までに院生自身の問題意識を確定させる。その後、それに沿って、実証分析に利用できるデータ収集および分析手法の検討、分析と解釈を指導の中心とする。したがって、分析対象に関わる制度などは、院生自身が関連文献等にあたっていることが必要である。</p> <p>[研究調査]</p> <p>基本的に、修士論文と同様の進め方を考えているが、よりデータ収集と計量分析に重きをおく指導をおこなう。</p>